

自然災害に対する

家庭の LCP（生活継続計画）について

災害の多い日本には
家庭にも生活を維持するLCPが必要です。

REPs Consulting
西野泰広

生活を守るために

近年、大規模な災害が頻発するようになりました。

このような災害から生活を守るために、
家庭でも「災害に対する取り組み」が必要です。

そのためには、
何をしなければならないのでしょうか？

LCP (Life Continuity Plan)

必要なLCP行動は

▶ 「生活」の安全・安心を築く計画

生活基盤（衣食住）の安全・安心

▶ 「命」を守る行動

家族の「命」を守る

LCP（生活継続計画）は

LCPは「身の丈に合った範囲」で
これを前提にしたものです。

家計に負担を極力かけない

だから、計画が重要となります。

「災害」は多発傾向

大規模な災害は毎年、どこかで起こっています

台風、豪雨、洪水、土砂災害、地震、津波、
火山噴火、竜巻、落雷、など.....

明日、身近で起こっても不思議ではありません

災害に遭われた方の言葉

“行動の先延ばしは後悔しか生まない”

- あの時 ○○をするべきだった
- あの時 ○○ができたはずだった
- あの時 ○○をしたかった

**「安全」と「安心」は計画を立て、
行動をしない限り手にはいりません。**

LCP（生活継続計画）

[1] 短期計画（low-cost plan）

行動計画書の策定

[2] 中期計画（middle-cost plan）

脆弱個所の強化

[3] 長期計画（high-cost plan）

あるべき姿と現状のギャップを埋める

計画の「時間軸」と「内容」は

計画を立てる前に

身近にある「危険」を知ること

災害の多くはその「立地」に関係している

LCP行動のスタートは
災害に備える「情報の入手」から

天災は忘れた頃にやってくる

「災害はいつ起こるかわからない」
常に命を守る適切な行動が行えるように
“危機意識を高く持つ”

上記のキーワードは

「適切な行動」は「意識」から

適切な行動に必要なもの

「知識」「意識」「情報」

この「三つ」がなければ、

“適切な行動”は生まれない

逆に、この「三つ」があれば、

「適切な行動」は自然と生まれる

避難のタイミングは「個々」で異なる

同じ場所においても、危険度は異なる

若者と高齢者、健康状態、車の有無 … など

個々によって
避難場所に移動する「余裕度」が異なる

周りが避難をしていないから
「大丈夫」だとは限らない

家庭のLCP（生活継続計画）

「知識」自体には価値はありません

実際に「行動すること」で

「知識」に大きな価値が生まれる

EOF
End Off File